



Title	檜陵のキャンパス
Author(s)	諏訪, 正明
Citation	北海道大学大学院農学研究科技術部研究・技術報告, 12
Issue Date	2005-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/35471
Type	bulletin (article)
File Information	12_hajimeni.pdf



[Instructions for use](#)

榆陵のキャンパス

農学研究科技術部長 諏訪 正明

札幌は豊平川の扇状地に開かれ、もともと榆の生育に好適の土地柄であると言うことです。榆の巨木が随所にある様を見て、ホーレスケプロンをはじめアメリカから招聘された人たちは皆、クラーク先生もそうだったと思いますが、故郷のニューイングランドを懐かしんで、榆を大事にするよう進言しました。本学のキャンパスでは今も榆の大樹が枝を広げ、語りかけます、「クラーク先生の Lofty ambition の教えを胸に先輩たちは、この札幌の地に北のアテネを夢見たのですよ」と。榆の効果は本学の特色です。このキャンパスで学ぶ学生たちの胸にも、知らずのうちに大きな心が育ちます。

明治31年発行の『札幌農学校』と題する冊子には、「石狩原野を渡る千里の風は榆の木立を吹き抜けて崇高の曲を奏でる」と書かれており、そしてまた、「手稲の山並みを仰ぎ見る石狩の平原に位置する札幌こそが大いなる人材育成に好適の地である」ことを謳っております。

札幌は大きく発展し、学内外で高層建築が増えました。キャンパスのどこからでも手稲山が見えるとは言えなくなりましたが、教育研究の場として全国的にも稀有のすばらしさを維持しております。昨年の台風被害の爪痕はまだ痛々しく残っておりますが、それも時間が修復してくれるでしょう。

これに質の高い教育研究があれば鬼に金棒、自ずと全国から前途有為の若者が本学を目指すようになるでしょう。技術部への期待は大きなものがあります。皆さん方の自負と研鑽が大事であります。ご奮闘下さい。